

◆ DPTは、ジフテリア・百日せき・破傷風の予防接種です ◆

対象者： 生後3ヵ月から90ヵ月に至るまで（7歳6ヵ月となる日の前日まで）の間にある児

※沖縄市に住民登録をしている方

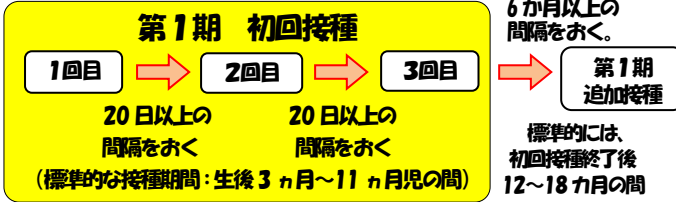
※ジフテリア・百日せき・破傷風のいずれかにかかった方も、DPTワクチンを接種することができます。

接種回数： 第1期 4回

初回接種：3回、追加接種：1回

＜接種回数と間隔＞

第1期4回（初回接種：3回、追加接種：1回）



※標準的な接種期間・間隔とは、病気にかかりやすい年齢や、免疫のつけやすい間隔を考慮して定められたものです。標準的な接種期間・間隔を過ぎてても、対象者であれば無料で接種が受けられます。

第1期初回の標準的な間隔は、「20日～56日」です！

◆平成30年1月29日よりDPTワクチンの使用が再開されました。

海外で接種された方など、DPT予防接種を4回接種していない場合、残りの回数を四種混合（DPT-IPV）又は三種混合（DPT）ワクチンにて接種することができます。



ジフテリア (D)

ジフテリア菌の飛沫感染で起こる病気です。主にのどや鼻に感染します。2～5日程度の潜伏期を経て、高熱、のどの痛み、嚥下痛（飲み込み時の痛み）などではじまります。鼻ジフテリアでは血液の混ざった鼻汁や鼻孔や上唇のただれなどがみられます。扁桃・咽頭ジフテリアでは、のどに偽膜と呼ばれる膜ができ、頸部リンパ節炎がみられます。喉頭ジフテリアでは、犬が吠えるような咳がみられ、気道にも偽膜ができるため呼吸困難となり、気管支まで偽膜形成が進むと窒息死することもあります。また、この菌は、ジフテリア毒素を大量に出して神経や心臓の筋肉を侵すため、発病後に心筋炎や神経麻痺を起こし、突然心筋障害で死亡することもあります。

現在、国内での発生は平成11年に降ありません。世界的にもワクチンの普及により患者数は減少していますが、政権崩壊でワクチン接種率の低下した旧ソ連などでは1990年代に大流行が起こり、四千人以上の死亡者が出ました。近年は海外からジフテリア菌が持ち込まれるリスクが懸念されています。

百日せき (P)

百日せき菌の飛沫感染で起こる病気です。普通のかぜのような症状で始まりますが、続いてせきがひどくなり、顔を真っ赤にして連続的に激しくせき込むようになります。せきの後、急に息を吸い込むので、笛を吹くような音が出ます。

乳児がかかると重症で、激しいせきで息を吸う間がないため、呼吸ができず、くちびるが青くなったり(チアノーゼ)、けいれんが起きたり、肺炎や脳症等の重い合併症で死亡することもあります。最近、思春期・成人の百日せき例が増加傾向にあり、乳幼児への感染源となる危険性もあります。

破傷風 (T)

破傷風菌は世界中の土壌中に存在する為、常に感染の危険性があります。深い傷だけではなく、土いじり等でできる小さな傷でも起こります。傷口から侵入した破傷風菌が出す毒素により中枢神経を侵し、けいれんを起こす病気です。3～21日の潜伏期間のあとに、口が開けにくくなり、歯がかみ合わさった状態（開口障害）、顔面筋の緊張・硬直により引きつった顔になるなど局所のけいれん症状からはじまります。続いて全身性のけいれんが起こり、重篤な場合は呼吸筋の麻痺により窒息死することもあります。

この菌は自然感染によって免疫を獲得できないため、予防接種以外に免疫をつける方法はありません。近年の破傷風患者は破傷風の予防接種未接種世代の50代以上が大多数ですが、1期追加、2期DT未接種の中学生が骨折後に破傷風を発症、2期DT未接種の高校生がクラブ活動中のケガで破傷風を発症した事例があります。

●DPTワクチンの副反応

注射部位の赤み・はれ・水疱・しこり・痛み・熱感などの局所反応が主で、接種回数を重ねるごとに反応が大きくなる傾向があります。赤みやはれなどは一過性で数日中に消失しますが、しこりは小さくなりながらも数ヵ月残ることがあります。注射部位以外の副反応としては、発熱、下痢、嘔吐、発疹を認めることがあります。いずれも一過性で数日中に消失します。

重大な副反応として、まれにショック、アナフィラキシー（じんましん、呼吸困難、血管浮腫等）、血小板減少性紫斑病、脳症、けいれんなどが報告されています。

定期（予防接種法に基づく）予防接種の後に起きた健康被害が、予防接種によるものと国で認定された場合には、予防接種法に基づく補償（医療費・医療手当、障害児養育年金、障害年金、死亡一時金、葬祭料など）を受けることができます。

沖縄市役所 こども相談・健康課 予防係 TEL 939-1212(内線 2232・2233)

※この予診票の情報は令和3年3月現在のものです。